

第 34 回

パチンコ景気動向指数 (DI)

調査結果

■ DI (Diffusion Index) とは？

パチンコ業界における景気動向を把握するため、2000年6月より四半期(3、6、9、12月)ごとに実施している調査。

■ 今回の調査について

1. 調査対象： A c l u b 会員 (エンタテインメントビジネス総合研究所の会員制情報提供サービス会員) ほか、全国の有力パチンコ店経営企業
日本遊技関連事業協会、パチンコ・チェーンストア協会、日本遊技産業経営者同友会、余暇環境整備推進協議会の調査協力を得て実施。
2. 実施時期： 2008年9月16日～2008年9月26日
3. 調査方法： F A X にて送付・回答
4. 回収状況： 有効回収数 89 社

2008年10月



調査結果のポイント

■ 全般的概況は 5.8 と改善、9 月期プラスは調査開始以来初

現況(2008年9月)の各社の業況判断DI値は、5.8と前回調査時のマイナス3.9から、9.7ポイントの改善となった。9月期は例年落ち込みを見せるものの、今期は前期比上昇に転じた。9月期のDI値がプラスとなったのは2000年の調査開始以来初。

見通し(3ヶ月後)については、マイナス3.9と先行きへの不安を尚残している。

<各規模事業者ともに現況改善>

大規模事業者でDI値33.3と前回から10.6ポイントの改善。中規模事業者でDI値マイナス5.7と前回から15.0ポイントの改善。小規模事業者はDI値マイナス12.5と前回から14.2ポイントの改善となっている。

見通し(3ヶ月後)では、大規模事業者(30.6)、中規模事業者(マイナス22.9)、小規模事業者(マイナス21.9)と、中・小規模事業者での下げ幅が大きくなっている。

■ パチンコ現況は好転、各規模事業者ともに上げ

パチンコの稼動状況のDI値は、前回の2.9から21.6と18.7ポイントの改善となった。見通し(3ヶ月後)では、9.8となっており、プラス圏での推移となっている。

前6月期と比べると、大規模事業者は26.6ポイントの改善、中規模事業者は9.1ポイントの改善、小規模事業者は26.7ポイントの改善と各規模ともに上げている。

■ 5号機時代移行から1年、低迷続くパチスロ市況

パチスロの稼動状況のDI値は、前回のマイナス48.1からマイナス42.7と5.4ポイントの改善となっている。しかし数値は大きくマイナスとなっている。5号機時代を迎えてから1年、パチスロ市況は低迷を続けている。

前6月期と比べると、大規模事業者は0.6ポイントの悪化、中規模事業者は9.5ポイントの改善、小規模事業者は19.4ポイントの改善となっている。

■ 好調多いMAXタイプ。適正と考える設置比率は現状より高め

MAXタイプ(大当たり確率1/400付近)の設置比率の現状は、「10%~14%」と「15%~19%」が約3割で拮抗している。

適正だと思える設置比率では、「15%~19%」と「20%~24%」が約3割と、現状より高い設置比率の回答が高くなっている。また「25%超」が、現状の5%から適正では13%と高くなっている。さらに導入が進むとの見方が大半となっている。

現在設置されているMAXタイプの稼動状況は、「好調」47%、「普通」51%、「不振」3%であり、好調な企業の多さがみとれる。

5号機で魅力を失ったお客様がハイリスク・ハイリターンを期待して遊技するなど、パチスロユーザーの受け皿としての機能を果たしている。

景況キーワード

■ MAX タイプで利益確保できるも、玉利の高止まりには懸念も

『MAX タイプは利益がとれるが、集客力のある強い店舗でないと稼動を取ることにはできない。メーカーが MAX タイプに力を入れれば入れるほど、弱小店の淘汰は進む。』や『玉利の高止まりが続いているが、パチスロユーザーがパチンコに移ったと判断すれば、玉利の上昇も理解できる。しかしながら従来のパチンコファンへの玉利配分には十分気をつけて調整をすべきと感じている。』といった意見にあるように、MAX タイプによる利益確保は出来ているものの、さらなる企業間格差拡大への懸念とともに、一般ファンへの還元を意識すべきとの声も。

■ 先行き不透明感打破に、行政・メーカーへの働きかけ望む

『金融機関の見方は厳しく、先行きが不透明であり、早急に打開策を考えないといけない状況。』や『ホールとメーカーのバランスが崩れてきている。メーカーの機械代金の高騰、CM等のしわよせがお客様に影響している事を行政は見てみぬふりなのか?』などの声が上がっている。いまだに業況の先行きが不透明な中、業界として行政及びメーカーを動かし、規制緩和やメーカーによる遊技機価格の低減を望んでいる。

<主要指標 パチンコ業界全体>

項目	D.I. 値			業界天気		コメント
	前回現状	現状	見通し	現状	見通し	
1. 全般的業況	-3.9	5.8	-3.9	 → 	全般的業況は引き続いて曇り。見通しも曇りを維持。	
2. 稼働状況 (パチンコ)	2.9	21.6	9.8	 → 	現況は曇りから薄曇りに改善。先行き見通しは曇りに。	
3. 稼働状況 (パチスロ)	-48.1	-42.7	-41.7	 → 	現況引き続いて雷雨。先行き見通しも雷雨を継続。	
4. 資本投入気運の変化 (台)	-5.4	-2.2	4.5	 → 	現況は引き続いて曇りに。見通しも曇りを維持。	
5. 資本投入気運の変化 (設備)	-13.5	-2.2	5.6	 → 	現況は雨から曇りに改善。見通しも曇りを維持。	
6. 営業用設備の不足感	5.8	-1.0	-1.0	 → 	設備不足感横ばい。見通しも小康状態を保つ。	
7. 雇用人員の不足感	27.9	21.4	23.3	 → 	人材不足感はやや和らぐ。見通しは横ばい圏内。	

注：前回現状は 2008 年 6 月調査時の結果

天気記号使用基準

記号	数値	記号	数値
 晴れ	30.0~	 雨	-29.9~-10.0
 薄曇り	10.0~29.9	 雷雨	~-30.0
 曇り	-9.9~9.9		

全般的概要－業況

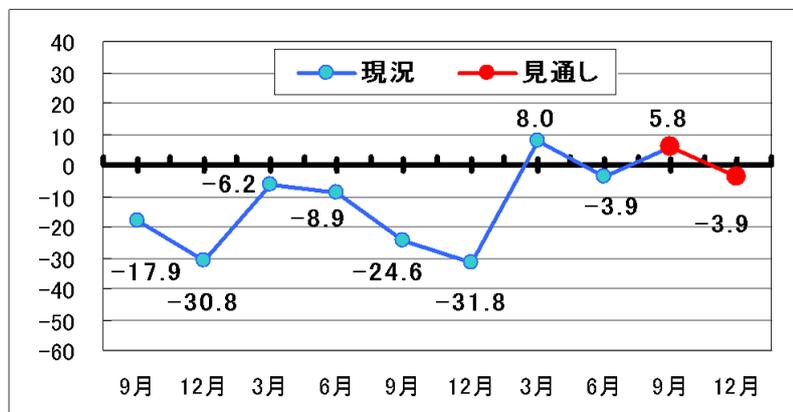
■ 業況判断DI 値は 5.8 と改善、9 月期プラスは調査開始以来初

現況(2008 年9月の業況判断)は「良い」が 2.9 ポイント増加して 22.3%となり、「悪い」が 6.8 ポイント減少して 16.5%となり、DI指数は 5.8 と前回のマイナス 3.9 から、9.7 ポイントの改善となった。9月期は例年落ち込みを見せるものの、今期は前期比上昇に転じた。9月期の DI 値がプラスとなったのは 2000 年の調査開始以来初。

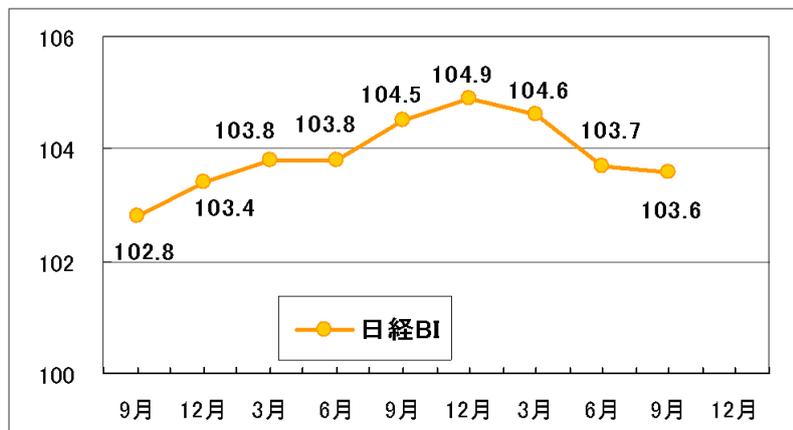
見通し(3ヶ月後)については、マイナス 3.9 と先行きへの不安を尚残している。

代表的な民間の景気動向指数である「日経BI」7月速報値は 103.6(2005 年7月=100)と前月を 0.3 ポイント下回った。低下は2ヶ月連続となっている。日経BIは、鉱工業生産、商業販売額、有効求人倍率、所定外労働時間の4指標に共通する「景気の波」を取り出したもの。07 年 10 月の 105.4 をピークに下落基調で推移している。7月は2カ月ぶりに上昇したものの、ピークの水準からは 1.8 ポイント低い。ピーク比で 1.5 ポイントを超える低下は、過去には景気後退期にしかない。日経BIは景気が後退局面にある公算が大きいことを示している。

<現況の推移と見通し>



<日経景気インデックスデータ (日系BI)>



※インデックスデータは、1-3月の平均を3月に示した。直近の9月は7月速報値。

日経景気インデックス (日経BI)

景気動向を反映する生産、需要、所得、労働の4つの側面を代表する指標（鉱工業生産、商業販売額、所定外労働時間、有効求人倍率）から共通する「景気の波」を抽出したもの。「景気」そのものの変化方向と水準を表す。構成要素の4指標はすべて翌月末までに公表されるため速報性に優れている。
BIはビジネス・インデックス (Business Index) の略。(2005 年 7月=100)

全般的概況－判断理由と経営上の課題

■ 集客数の違いが業績の好悪分ける。大中規模事業者では『顧客単価の上昇』が好業績の理由に

業況判断を「良い」(22.3%)と下した理由は、『来店客数の増加』(73.3%)、『顧客単価の上昇(13.3%)』の順となっている。『客単価の上昇』は、小規模事業者はゼロ、中規模事業者は50.0%、大規模事業者で16.7%が良い理由としてあげている。保有店舗数による業績格差の一端がみてとれる。

業況判断を「悪い」(16.5%)と下した理由は、『来店客数の減少』(88.2%)、『顧客単価の減少(5.9%)』、『店舗数の増加』(5.9%)の順となっている。

■ 大中規模事業者を中心に『他の同業他社との競争』が上昇

経営上の問題点の上位項目で、全体で前回より回答率が上昇したのは『他の同業他社との競争激化』(62.8%:12.8ポイント上昇)、『設備・運営費の増加』(29.1%:6.1ポイント上昇)などとなっている。

事業者の規模別にみると、大規模事業者では、『他の同業他社との競争激化』(55.0%)で12.9ポイント、『人件費の増加』(20.0%)で14.7ポイント上昇している。中規模事業者では『人材教育・人材育成』(70.6%)で22.4ポイント、『他の同業他社との競争激化』(70.6%)で18.7ポイント、『人材不足・人材確保』(32.4%)で13.8ポイント上昇している。小規模事業者では、『設備・運営費の増加』(25.0%)で7.1ポイントの上昇となっている。

事業者規模を問わず、『他の同業他社との競争激化』と『人材教育・育成』は共通の課題として引き続き高い割合を占めている。

<経営上の課題>

項目	全体 (3月)	全体 (6月)	全体 (9月)	小規模 事業者	中規模 事業者	大規模 事業者
他の同業他社との競争激化	47.2%	50.0%	62.8%	59.4%	70.6%	55.0%
人材教育・育成	50.6%	51.4%	55.8%	46.9%	70.6%	45.0%
人材不足・人材確保	42.7%	29.7%	32.6%	34.4%	32.4%	30.0%
設備・運営費の増加	34.8%	23.0%	29.1%	25.0%	29.4%	35.0%
資金調達	32.6%	39.2%	26.7%	25.0%	26.5%	30.0%
時間帯・曜日などの客の偏り	15.7%	21.6%	23.3%	25.0%	26.5%	15.0%
不明瞭な行政指導	19.1%	23.0%	18.6%	15.6%	14.7%	30.0%
人件費の増加	14.6%	13.5%	11.6%	9.4%	8.8%	20.0%
公的な規制	20.2%	14.9%	11.6%	15.6%	5.9%	15.0%
組合の自主規制	5.6%	5.4%	7.0%	6.3%	8.8%	5.0%
料金改定が困難	0.0%	5.4%	2.3%	0.0%	2.9%	5.0%

注：小規模事業者＝1～3店舗 中規模事業者＝4～10店舗 大規模事業者＝11店舗以上

全般的概要—稼動状況

■ パチンコ現況は好転、各規模事業者ともに上げ

現況の稼動状況は21.6と、前回の2.9から18.7ポイントの改善となった。例年3月期は上昇するが、その後は6月、9月、12月と下降線を辿っていた。今年に関しては、洞爺湖サミットの自粛期間(6~7月)を過ぎて市場導入された「CR 大海物語スペシャル」や「CR 北斗の拳」の好調にも支えられパチンコ現況は好転した。また、全国的に普及・定着している低貸玉営業も寄与しているものと思われる。

見通し(3カ月後)は9.8となっており、プラス圏での推移となっている。

現況の稼働状況を規模別にみると、大規模事業者(11店舗以上保有)が44.4、中規模事業者(4~10店舗)が5.7、小規模事業者(1~3店保有)が12.9となっている。

前6月期と比べると、大規模事業者は26.6ポイントの改善、中規模事業者は9.1ポイントの改善、小規模事業者は26.7ポイントの改善と各規模ともに上げている。

先行き見通しについては、大規模事業者は36.1、中規模事業者ではマイナス2.9、小規模事業者ではマイナス6.5と、現況よりもやや厳しい見通しとなっている。

■ 5号機時代移行から1年、低迷続くパチスロ市況

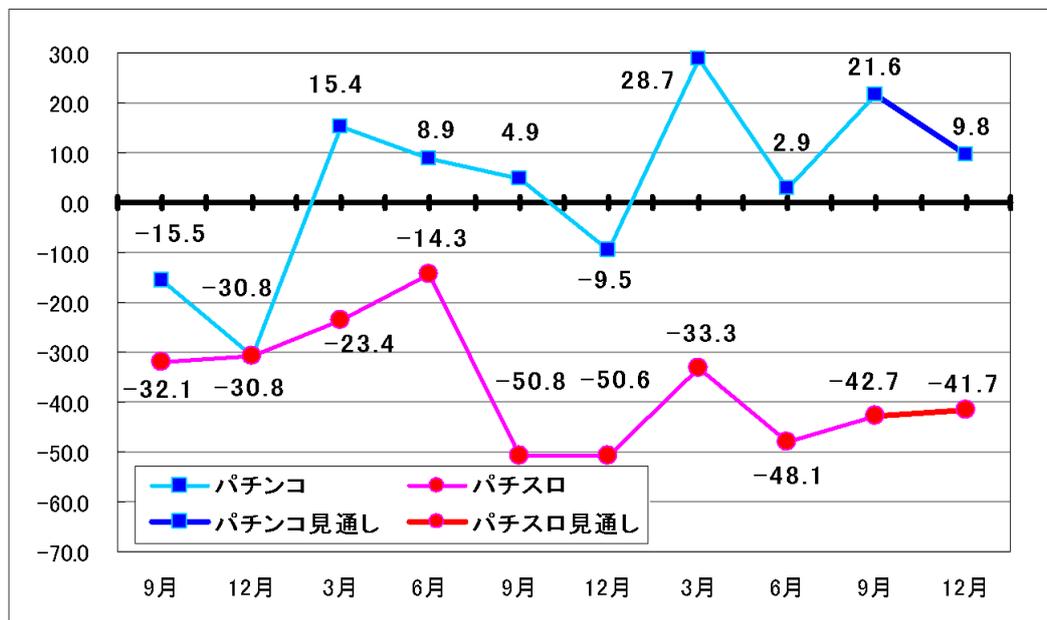
現況の稼動状況は、マイナス42.7と、前回のマイナス48.1からは5.4ポイントの改善となっている。しかし数値は大きくマイナスとなっている。5号機時代を迎えてから1年、パチスロ市況は低迷を続けている。

見通し(3ヶ月後)は、マイナス41.7と、尚厳しいものとなっている。

現況の稼働状況を規模別にみると、大規模事業者(11店舗以上保有)がマイナス25.0、中規模事業者(4~10店舗)がマイナス62.9、小規模事業者(1~3店保有)がマイナス40.6となっている。

前6月期と比べると、大規模事業者は0.6ポイントの悪化、中規模事業者は9.5ポイントの改善、小規模事業者は19.4ポイントの改善となっている。

<稼動状況の推移と見通し(パチンコとパチスロ)>



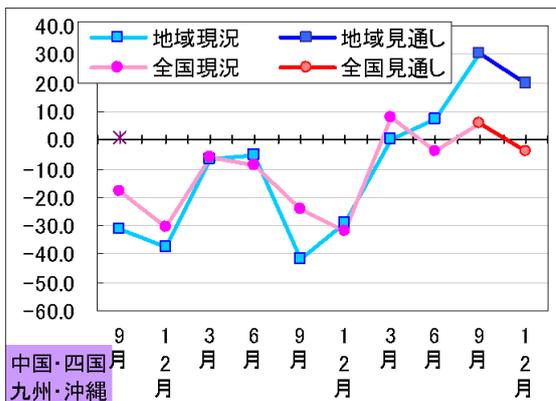
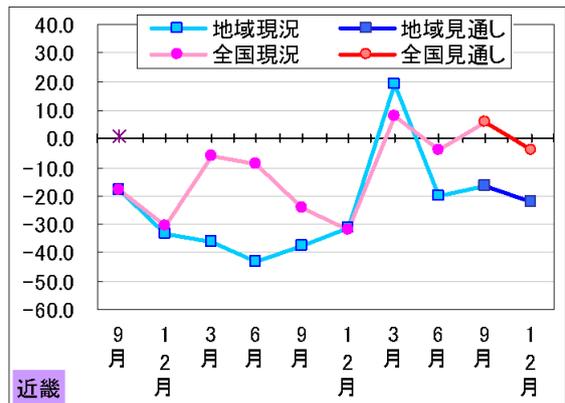
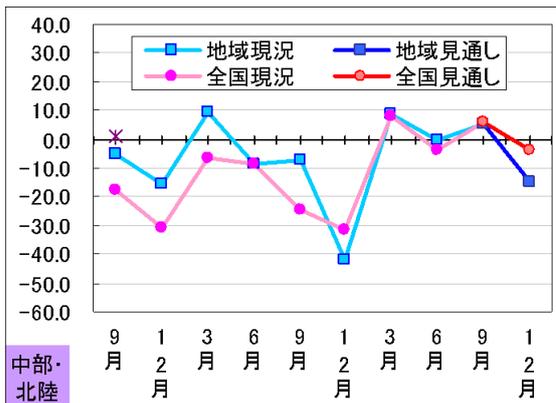
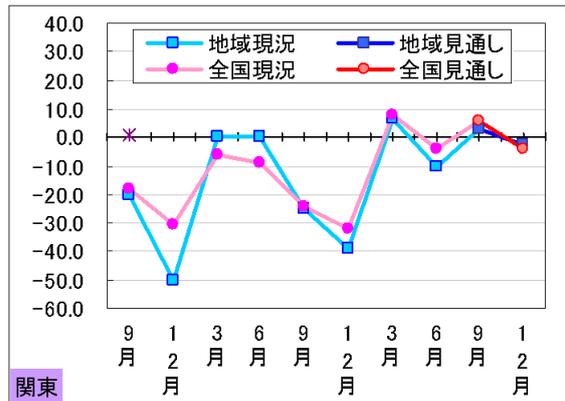
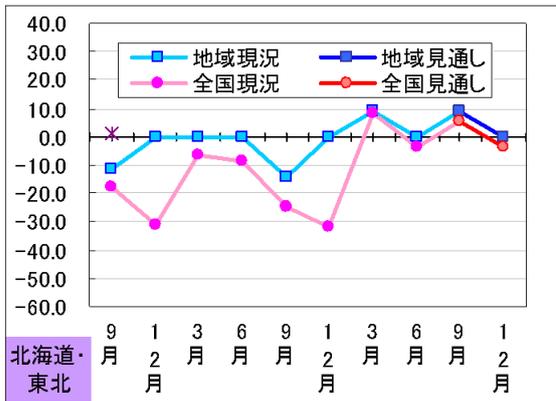
地域別の業況

- 現況は各地区ともに改善、「近畿」を除きプラス数値、見通しは各地区で悪化

現況のDI値は、各地ともに改善。「中国・四国・九州・沖縄」は30.0と高数値。「近畿」のみマイナス16.7とマイナス圏。

見通し(3ヶ月後)については、各地区で数値を下げ、プラス圏は、20.0の「中国・四国・九州・沖縄」のみ。

<地域別 業況>



規模別業況

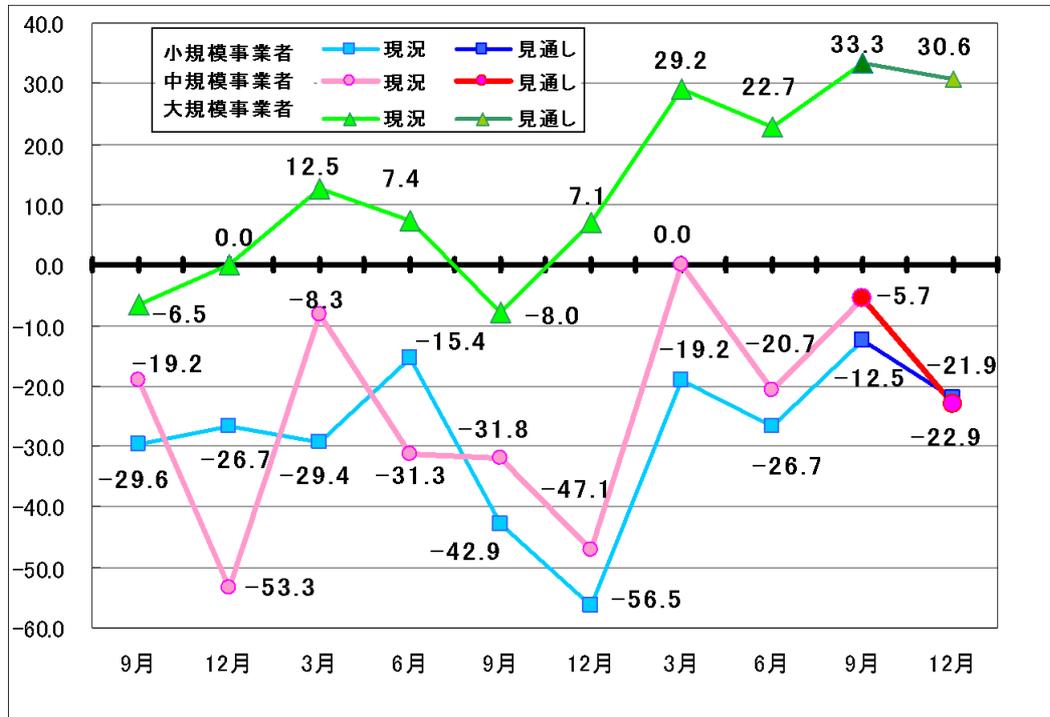
■ 各規模で現況改善、大規模と中・小規模の格差定着。見通しは中・小で下げ幅大きい

現況の業況判断を規模別にみると、大規模事業者でDI値33.3と前回から10.6ポイントの改善。中規模事業者でDI値マイナス5.7と前回から15.0ポイントの改善。小規模事業者はDI値マイナス12.5と前回から14.2ポイントの改善となっている。

昨年の12月期以降、大規模事業者はマイナス圏への転落は一度もなく、中・小規模事業者との業況格差が定着した感がある。

見通し(3ヶ月後)では、大規模事業者(30.6)、中規模事業者(マイナス22.9)、小規模事業者(マイナス21.9)と、中・小規模事業者での下げ幅が大きくなっている。

<規模別：業況の推移と見通し>



注：小規模事業者＝1～3店舗 中規模事業者＝4～10店舗 大規模事業者＝11店舗以上

MAX タイプの現状と今後

■ 好調多い MAX タイプ。適正と考える設置比率は現状より高め

MAXタイプ(大当たり確率 1/400 付近)の設置比率の現状は、「10%~14%」と「15%~19%」が約3割で拮抗している。

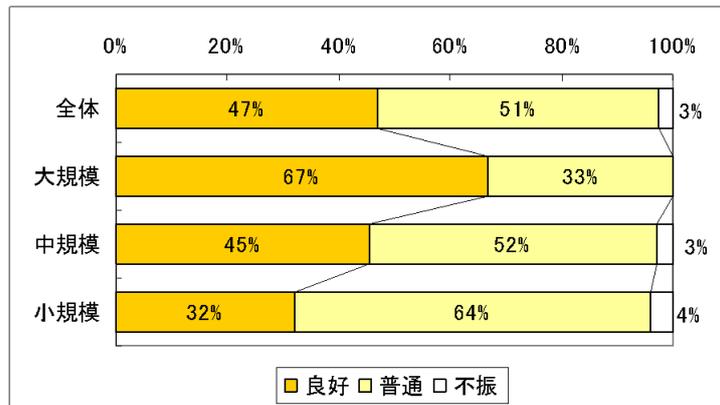
適正だと思う設置比率では、「15%~19%」と「20%~24%」が約3割と、現状より高い設置比率の回答が高くなっている。また「25%超」が、現状の5%から適正では13%と高くなっている。今後も年末にかけてビッグネームの発売が控えていることから、まだ導入が進むとの見方が大半となっている。

但し、市場や店舗ごとの適正台数を見誤ると、一気に稼働低下につながるの懸念も持たれている。正月営業期を過ぎた頃に、強い店舗とそうでない店舗の格差が広がるとの見方もされている。

現在設置されている MAX タイプの稼働状況は、「好調」47%、「普通」51%、「不振」3%であり、好調な企業の多さがみてとれる。

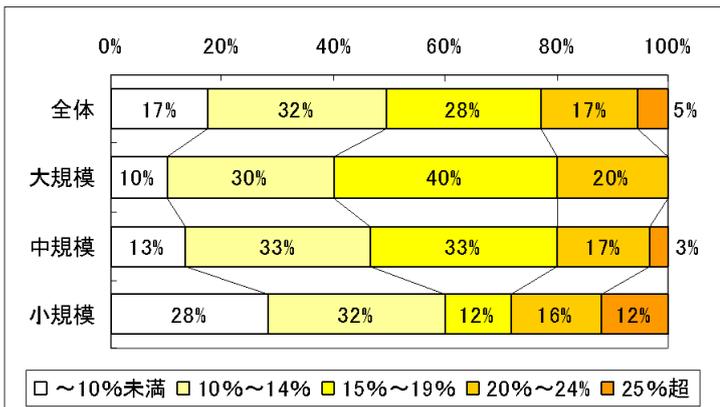
5号機で魅力を失ったお客様がハイリスク・ハイリターンを期待して遊技するなど、パチスロユーザーの受け皿としての機能を果たしている。

<MAX タイプの稼働状況>

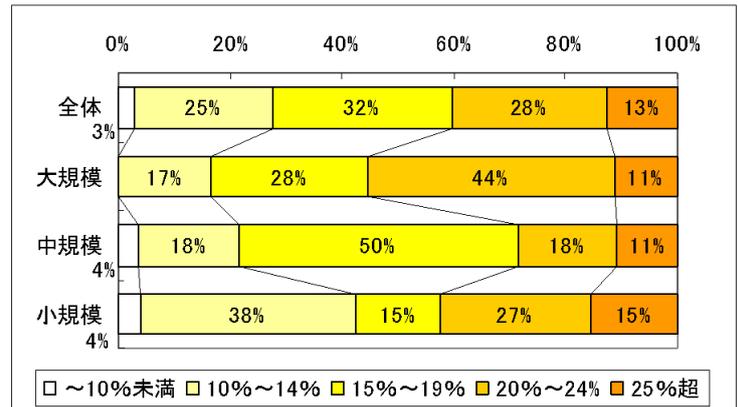


注：小規模事業者 = 1 ~ 3 店舗 中規模事業者 = 4 ~ 10 店舗 大規模事業者 = 11 店舗以上

<MAX タイプの設置比率 (現状)>



<MAX タイプの設置比率 (適正)>



注：小規模事業者 = 1 ~ 3 店舗 中規模事業者 = 4 ~ 10 店舗 大規模事業者 = 11 店舗以上

調査結果概要 DATA

■規模（店舗数）別

項目	DI 値区分	小規模事業者			中規模事業者			大規模事業者		
		前回	現状	見通し	前回	現状	見通し	前回	現状	見通し
1. 全般的業況		-26.7	-12.5	-21.9	-20.7	-5.7	-22.9	22.7	33.3	30.6
2. 稼働状況（パチンコ）		-13.8	12.9	-6.5	-3.4	5.7	-2.9	17.8	44.4	36.1
3. 稼働状況（パチスロ）		-60.0	-40.6	-37.5	-72.4	-62.9	-68.6	-24.4	-25.0	-19.4
4. 資本投入気運の変化（台）		-3.6	0.0	-6.3	-7.4	-5.6	16.7	-5.3	0.0	0.0
5. 資本投入機運の変化（設備）		-13.8	-3.1	12.5	-19.2	-11.1	-5.6	-5.3	14.3	14.3
6. 営業用設備の不足感		13.3	9.4	12.5	-3.4	-5.7	-8.6	6.7	-5.6	-5.6
7. 雇用人員の不足感		16.7	28.1	18.8	31.0	22.9	31.4	33.3	13.9	19.4

注：小規模事業者＝1～3店舗 中規模事業者＝4～10店舗 大規模事業者＝11店舗以上

■地域別

項目	DI 値区分	北海道・東北			関東			中部・北陸		
		前回	現状	見通し	前回	現状	見通し	前回	現状	見通し
1. 全般的業況		0.0	9.1	0.0	-10.0	2.9	-2.9	0.0	5.0	-15.0
2. 稼働状況（パチンコ）		0.0	27.3	9.1	-3.3	29.4	11.8	21.1	15.8	0.0
3. 稼働状況（パチスロ）		-58.3	-36.4	-27.3	-60.0	-47.1	-50.0	-30.0	-60.0	-55.0
4. 営業用設備の不足感		-8.3	-9.1	-9.1	0.0	5.9	5.9	5.0	-5.0	-10.0
5. 雇用人員の不足感		25.0	9.1	27.3	40.0	23.5	23.5	25.0	10.0	15.0
項目	DI 値区分	近畿			中国・四国・九州・沖縄			営業用設備の不足感、雇用人員の不足感が強いほどに設備投入機運の採用、活用に結びつくものであり、業況は改善に向かうものと判断される		
		前回	現状	見通し	前回	現状	見通し			
1. 全般的業況		-20.0	-16.7	-22.2	7.4	30.0	20.0			
2. 稼働状況（パチンコ）		-6.7	-5.6	-5.6	3.7	35.0	30.0			
3. 稼働状況（パチスロ）		-53.3	-50.0	-55.6	-40.7	-15.0	-10.0			
4. 営業用設備の不足感		6.7	-11.1	0.0	18.5	5.0	0.0			
5. 雇用人員の不足感		20.0	38.9	33.3	22.2	20.0	-20.0			

■資金繰り等の現況推移

項目	対象時期	パチンコ業界全体			小規模事業者			中規模事業者			大規模事業者		
		3月調査	6月調査	9月調査	3月調査	6月調査	9月調査	3月調査	6月調査	9月調査	3月調査	6月調査	9月調査
資金繰り		-19.3	-18.7	-5.6	-42.3	-44.8	-15.6	-7.7	-29.6	-8.3	-13.0	36.8	14.3
貸出態度		-40.2	-37.8	-43.8	-50.0	-51.7	-50.0	-34.2	-50.0	-50.0	-39.1	0.0	-23.8
借入金利		-11.6	-14.7	-12.8	-3.8	-13.8	-16.7	-2.6	-11.1	-11.4	-36.4	-21.1	-9.5

注：小規模事業者＝1～3店舗 中規模事業者＝4～10店舗 大規模事業者＝11店舗以上

SERVICE

提供商品

Entertainment Business Institute



基礎研究・応用研究

コンサルティング・講演・勉強会

・経営支援・人材育成・店舗運営・事業企画、開発

パーラー向け会員サービス「**Aclub®**」

・電子メール、FAX情報提供・セミナー優待

出版・研究報告書

・パチンコ参加実態調査
・駅別乗降者数総覧<年刊>
・研究報告書、関連書籍

インターネット・システム構築

・社内ネットワーク設計
・ホームページ制作、運用支援

カジノ関連

・UNLVエグゼクティブセミナー
・カジノ視察ツアーコーディネート

第35回 パチンコ景気動向指数（DI）調査に ご協力を

業界四団体が協力

本調査は

- ・日本遊技産業経営者同友会
- ・日本遊技関連事業協会
- ・パチンコ・チェーンストア協会
- ・余暇環境整備推進協議会

の業界4団体のご協力を得て実施しております。

金融機関も参考にするデータ

最近では、銀行、証券会社等からの本調査に関するお問合せも増えており、パチンコ業界の業況を示すデータとしてその重要性は高まってきています。

ぜひ、本調査にご協力ください。

貴社のデータが加わることで、よりパチンコ業界の現況を正しく業界の内外に伝えることが可能になります。

ご協力をいただける方は下記にご記入のうえ

FAX：03-5688-5353へご返信ください。

次回（12月）に調査用紙をご送付いたします。

御社名		店舗名	
御担当者役職		御名前	
電話番号		ファックス番号	
メールアドレス			

ご記入いただいた情報はエンタテインメントビジネス総合研究所よりの調査依頼のご送付に利用いたします。調査に関連して、ご連絡を差し上げる場合もあります。



株式会社エンタテインメントビジネス総合研究所
<http://www.eb-i.jp> メール：info@eb-i.jp
電話：03-5688-4751 ファックス：03-5688-5353